

自己評価報告書（2024年度）

2025年5月15日現在

北海道エコ・動物自然専門学校

目 次

学校の概要	1	基準 6 教育環境	1 4
自己点検・自己評価に対する姿勢	4	基準 7 学生の募集と受入れ	1 5
学校関係者評価委員会の構成と意義	5	基準 8 財 務	1 6
教育理念	6	基準 9 法令等の遵守	1 7
学校の目標（今後 5 年間）	7	基準 1 0 社会貢献・国際交流	1 8
2024 年度の重点目標	8	2024 年度重点目標達成についての自己評価	1 9
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	9	2025 年度の重点目標	2 0
基準 2 学校運営	1 0		
基準 3 教育活動	1 1		
基準 4 学修成果	1 2		
基準 5 学生支援	1 3		

学校の概要

1. 学校の設置者

北海道エコ・動物自然専門学校は学校法人滋慶学園が設置する。学校法人滋慶学園は共通の理念のもとに専門学校を全国に運営する滋慶学園グループの構成学校である。

2. 開校の目的

エコロジカル（自然や環境との調和）を理念に、人と自然と動物の共生をテーマに動物飼育学科・動物看護師学科・総合ペット学科で、飼育員・環境調査員・動物看護師・ドッグトレーナー・ペットトリマー等を「**動物に共に学ぶ**」教育環境で人材育成をすることで、人と自然と動物の懸け橋なる人材を育成し、職業人教育を通じて社会に貢献する。

3. 校長名、所在地、連絡先

学校長 佐 藤 俊

所在地 北海道恵庭市恵み野北西 5 丁目 10-4 連絡先 0123-36-2311

学校の概要

4. 学校の沿革、歴史

- 2002年 9月 北海道エコ・コミュニケーション専門学校設置を北海道知事に申請
- 11月 北海道知事により認可（学事第594号）
- 2003年 4月 北海道エコ・コミュニケーション専門学校を開校 ペットビジネス学科を北海道ハイテクノロジー専門学校から独立・移管しアウトドア学科を開設。
- 12月 動物実習施設「エコ動物学園」落成
- 2006年 4月 アウトドア学科を観光サービス学科へ改称 ペットビジネス専攻科を開設 12月 インドアスタジアム竣工
- 2008年 4月 日本語学科を開設
- 2009年 3月 HES（北海道環境マネジメントシステムスタンダード）認証HES：0029 ⇒ 2020年3月返納
- 2010年 10月 第2日本語学科を開設 12月 ハイテクアリーナ竣工
- 2011年 4月 ペットビジネス学科をペット学科、動物看護学科、動物自然学科へ改称
- 2012年 4月 北海道エコ・コミュニケーション専門学校を北海道エコ・動物自然専門学校へ改称 日本語学科を北海道ハイテクノロジー専門学校へ移行 ペットビジネス専攻科廃科 観光サービス学科廃科
- 2014年 3月 職業実践専門課程に動物自然学科・動物看護師学科・ペット学科が認定
- 2014年 7月 動物自然学科 定員増 40名⇒80名へ変更
- 2014年 7月 傷病鳥獣保護収容事業協力者登録
- 2015年 4月 専門実践教育訓練講座 動物看護師学科、ペット学科ペットトリマーコースが厚生労働大臣の指定を受けスタート
- 2015年 4月 動物看護師学科 動物病院シミュレーション室 新設
- 2015年 6月 野生鳥獣リハビリ施設 新設
- 2018年 4月 動物看護師学科、ペット学科を統合し動物看護・ペット学科と改称 ペット学科募集停止
- 2019年 4月 学校法人産業技術学園が、学校法人滋慶学園と合併し改称
- 2019年 9月 大学等における修学の支援に関する法律(令和元年法律第8号)による修学支援の対象機関となる
- 2021年 4月 動物自然学科を動物飼育学科に改称、動物看護・ペット学科を総合ペット学科に改称、動物看護師学科(3年制)を開設
- 2022年 4月 総合ペット学科(3年制)を開設

学校の概要

4. 学校の沿革、歴史

2022年 4月 総合ペット学科(3年制)を開設

2022年 5月 動物看護師学科が愛玩動物看護師養成施設として承認。

2023年 4月 動物医療飼育学科（4年制）を開設とともに、愛玩動物看護師養成施設として承認。

自己点検・自己評価に対する姿勢

本校は、一人ひとりが目標を達成できるよう、職業人教育の正しい目標設定と目標に到達させるシステムの開発に取り組んでいる。

実践的な職業人教育を目的とした自らの教育活動、学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について自ら評価、公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図っている。

また、学校関係者評価委員会を組織し、自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明を行い、適切に説明責任を果たすとともに、学校関係者等からの理解と参画を得て、地域における関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努める。

※ 教育システムを「養成目的と教育目標」（養成目的はその学科の社会的ニーズ、教育目標は卒業時到達目標）、「目標達成プロセス」（カリキュラム、学年暦、時間割、シラバス）、「目標達成素材」（教科書、教材、教育技法）、「目標達成支援人材」（担任、専任講師、非常勤講師）、「評価基準」（透明性、公平性、競争性）の5要素で考えている。

学校関係者評価委員会の構成と意義

自己点検・自己評価を行なうにあたり、学校関係者評価委員会を組織する。評価委員会を組織することによって、学校の教育活動そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進する。

評価委員は学生保護者、卒業生、関係業界、高等学校、地域住民などの関係者で構成し、自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明を行い、学校関係者等からの理解と参画を得て、意見・評価を頂いている。

学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果たすとともに、地域における関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努めていく。

教育理念

北海道エコ・動物自然専門学校は、職業教育を行う高等教育機関として、職業人教育を通じて社会に貢献するミッションを持ち、3つの建学の理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」を通じ業界に直結した職業人の育成をするとともに、4つの信頼「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得ることを目指している。

北海道恵庭市の環境を活かし「動物と共に学ぶ学校」をコンセプトに、高い就職実績を実現し、道内はもちろん、全国から支持される学校を目指す。

※建学の理念

①実学教育

スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識・技術（テクニカルスキル）を身につける。

一人ひとりの個性を最大限に活かし、それぞれの業界で力が発揮でき、人に感動を与え、ビジネスマインドに富んだ「仕事ができる人材」を各業界との連携のもと養成を行う。これらを具現化するために、授業システムも動物と共に学ぶ実習を中心に実践的な授業を行い、動物・自然分野で求められる力を身につけられるように、万全の指導を行っている。

②人間教育

プロとしての身構え、気構え、心構えを持ち、他人への思いやりの気持ちを持った職業人を養成する。

また、専門職として仕事をする上で、常にサービスとケアを怠らず、細やかな対応ができるとともに、コミュニケーション力を持った人材育成を目指す。いかに技術的に優れていても人間性に欠けていたら信頼される職業人にはなれない。学校生活のなかで、いかに人間力を高める教育を行い、コミュニケーション能力やリーダーシップがとれる対人スキル（ヒューマンスキル）を会得し同時にたくましさも身につけていくことが目標である。そのため、本校は開学以来『今日も笑顔で挨拶を』を標語として掲げ、あいさつを習慣にする指導にとりくむ他、産学協同イベントや卒業制作・卒業研究・ボランティア活動にも参加をしている。

③国際教育

言語を身につけるという狭義の国際教育ではなく、より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養う。

『自分を愛することの出来ない人に、他人を愛することは出来ない』をモットーに、日本人としてのアイデンティティを確立したうえで、価値観や文化の違いを尊重できるよう導く。

そのため在学中は、海外の学校との交流や海外研修などの制度を活かし、それぞれの分野で先進的な取り組みをしている世界標準を学び、グローバルな視点とプロとして仕事をする心構えを育成する。グループワークを通して成長できる様教育を実践する。

学校の目標（今後 5 年間）

5 ヶ年の目標

1. 業界・受験生双方のニーズを満たす教育を展開し、2027 年までに全学科の定員を充足させる。
2. 1 年次から 2 年次への進級率を 97%にする
3. 定員を充足させると共に、支出を見直し収支を安定させる

目標の意図と方策

【意図】

1. 少子化の中で、業界に人材輩出を行うには、業界・高校生双方のニーズを満たす教育を展開し、選ばれ続け、定員を充足していくことが大切と考える。
2. もちろん、入学者全員の卒業を目指す但様々な理由で退学になる方も一定数はいる。ただ、入学して 1 年以内でやめることは、業界のことや仕事のことを十分理解せずにやめることであると考え。そのため学校としては進級率を 1 つの大きな目標と捉えている。
3. 学校コンセプトである「動物と共に学ぶ」を体現するために、動物を学内で飼育する環境整備が必要。そのために安定した収支が必要である。

目標を達成するための方策

1. 「動物と共に学ぶ」学校としてのブランド構築

学生が動物と関わりながら、自ら考えて学べる場を提供する。また、外部の方にも動物との関わりを提供し、それも学生の学びの場として活かしていきます。

2. 授業の質向上に取り組む

学生がより主体的に学べるように授業の質向上に取り組む。講師との連携、ハード面の整備、カリキュラムの変更、評価基準の再編などを実施していく。

3. 定員充足と支出の見直し

「動物と共に学ぶ」学校としてブランド化し定員を充足させると共に支出の見直しを行い、設備投資に予算を回せる体制を作る。

2024 年度の重点目標

1. 「動物と共に学ぶ」学校としてのブランド構築
2. 学校学科再編に対応した強い学校作り
3. 授業の質向上に取り組む

基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
総括 1. 建学の理念・目的について 職業人教育を通じて社会に貢献するというミッションを持ち、業界に直結した実践的な職業人の育成をしている。【動物と共に学ぶ】教育環境で、「人と動物をつなぐ人材を育成する」ことを目的とした学校運営に努めている。 2. 育人人材像について ディプロマポリシーを学校として明確に定め、「動物福祉」「環境保全」に関する知識を基盤とし自ら学び続ける意欲を持った人材育成を目指している。 3. 特色について 「動物と共に学ぶ」というコンセプトのもと、学内動物園やパートナーシップ制度など、全国的にも稀有な学習環境を整えている。また、地域貢献プログラム「ECO-Academy」を運営している。 課題 1. ディプロマポリシーに沿ったカリキュラムの改善。	2024 年度に大きな改装工事を行なったので、今後も良い環境作りを継続していき学生の教育の質の向上を図りたい。 また 2025 年度は次の 5 年間を見据えた計画の策定年となるので、現状を分析して未来構想を作っていきたい。	・道内で唯一、学内動物園を設置した専門学校。 ・総合ペット学科では、一人ひとりにパートナーシップ制度を設けて、日々の動物の変化に気付ける人材育成を行っている。

最終更新日付	2025 年 5 月 15 日	記載責任者	荒木 周平
--------	-----------------	-------	-------

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
総括 1. 学校運営・事業計画について 市場のニーズと学校の課題性を捉えた上で、運営方針を定めている。それを毎年の実行方針や目標に具体化している。また、運営方針の実行においては、定期的な会議の中で確認、対策立案、実行（PDCA サイクル）を行っている。 2. 組織運営について 各学科長の裁量を大きくし、現場で素早く意思決定を行える仕組みを構築している。課題発生の際は関係者で集まり、素早く解決している。 3. 意思決定システム・情報の一元化について 毎日の朝礼と終礼、月2度の全体会議を中心に意思決定と情報共有を行っている。 課題 1. 社会ニーズに即した新しい学科の開発 2. 働き方改革に対応した ICT の活用	課題 1. 社会ニーズに即した新しい学科の開発 ⇒学校関係者評価委員・教育課程編成委員を始めとして、学外からの情報を素早くキャッチし、それを議論し学科開発に努める。 2. 働き方改革に対応した ICT の活用 ⇒今後はさらに高度化したシステム(ダッシュボード等)を導入しさらに効率化を図りたい(広報・教育)	・運営方針の実現のため、学校全体会議及び学科会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し実行している。

最終更新日付	2025 年 5 月 15 日	記載責任者	荒木 周平
--------	-----------------	-------	-------

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
総括 1. 教育目標・教育課程について 学科毎にディプロマポリシーをしっかりと定め、業界のニーズに対応出来る人材育成に取り組んでいる。 2. 資格取得の指導体制について 資格取得の為に必要な支援講座を行っている。受験学生の状況に合わせながら受験指導内容を検討し改善を行っている。 3. 教員・教員組織について 業界で経験を積んだ教員や、卒業生の教員、さらに現場で現在も活躍する教員も確保している。それぞれの講師が意見交換などの交流を行うことで、教育の質向上を図っている。 課題 1. 実習における到達目標や成績評価基準の構築 2. 授業評価システムの構築	横断的なカリキュラムも構築し多様性に配慮を行いたい。また生成 AI 研修等、業務効率化や教育発展につながる研修を行っていきたい。 資格取得では愛玩動物看護師の資格取得のため、国家試験ドリル・自宅学習支援システム(J-web)等の環境をより活用する。また今年度の実績を踏まえ対策を強化する。	・キャリア形成を目的にオープンキャンパス・入学前教育を行い、在学中はキャリア設計を意識したカリキュラムに沿って授業が展開され、卒業後はキャリア開発が出来るようにサポートを実施している。 ・就業年限の 2～4 年間を前期・後期、2 つのステップに分けて段階を追ってスキルを上げて行ける様にシステムを構築している。

最終更新日付	2025 年 5 月 15 日	記載責任者	荒木 周平
--------	-----------------	-------	-------

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
総括 1. 3月末の求職者就職率は100%（93名就職／93名希望）、専門就職率は 82.8%と高い専門就職率を維持した。年度末で残った就職希望学生は0名である。 2. 資格合格率について 資格取得の為に必要な支援講座を行っている。受験学生の状況に合わせて受験指導内容を検討し改善を行っている。 3. 卒業後の成果について 滋慶学園内にて「J-CareerSchool」を展開。卒業生がキャリアアップできる仕組みを構築。 1. 動物園、水族館への就職率のさらなる向上	職業選択能力の醸成のため、職業選択を考える機会を設ける。 特に愛玩動物看護師資格対策は今年度の状況を省みて改善を行う。（30名受験 26名合格 合格率86.6%） 次年度はより掘り下げる形の取材を行い、入学希望者、在校生、同窓生に周知を図りたい。 また講師も積極的に卒業生を登用したい。	・日本動物園水族館協会加盟の園への就職者はここ数年安定して輩出出来ている。 ・自ら訓練所やトリミングサロンを立ち上げる卒業生も増えてきている。

最終更新日付

2025 年 5 月 15 日

記載責任者

荒木 周平

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
総括 1. 就職支援について 産学・高専連携センターを設置し、職員を配置している。就職への動機づけ授業、就職に向けた面談、履歴書添削、面接試験対策、求人開拓を行うとともに、学内外の企業説明会に参加の案内にて学生の業界理解に努めている。 2. 資格支援について 取得目標としている資格は、その業界で仕事をする上で重要な資格である為、全員の資格取得が出来るように受験対策を行っている。 3. 卒後支援について 随時、卒業生からの転職相談にも対応している。「卒業後も気軽に尋ねられる学校」を目指す。 課題 1. 多様な悩みを抱えた学生のサポート	卒業学年の個別面談を実施し、卒業後の長期的なキャリア開発を前提に就職指導を行う。SSC(学生相談室)の臨床心理士カウンセラーと連携し学生指導を行う。健康診断は2次検査まで確実に受診させる。 課外活動支援として2025年度は、9月の胆振の動物愛護フェス及び11月の北海道ワンヘルスフェアの参加を前向きに検討する。	・学園全体の半数以上が日本学生支援機構の奨学金利用者であり公的支援制度への相談体制ができている。採用の説明についても原則個別に丁寧に実施している。学費は原則一括納入ではあるが、個々の家庭の状況を鑑み、それぞれに合わせたプランの提案を実施している。

最終更新日付

2025年5月15日

記載責任者

荒木 周平

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
総括 1. 施設設備等について 各教室・実習室に必要な教育機器を配置している。新しい基準に準拠した犬舎を用意している。 2. 学内実習・インターンシップについて 学外実習については道内、道外問わずに 50 カ所以上におよぶ研修施設において実践的な実習を実施している。 3. 防火・安全管理について 防火管理者、総括安全衛生管理者、衛生管理者、環境管理者、安全管理者による管理体制を敷いている。年に1回消防本部、環境整備関連会社による防災訓練を実施。防災教育にも力を入れている。 課題 1. 学校コンセプト強化に向けた施設設備の強化	次年度も新たな改装工事を行い、施設、設備の充実を図りたい。 2025 年度は 4 月にシンガポールへの海外研修が行われる。国内研修と合わせて学生にとって価値のあるプログラムを組んでいきたい。	・各教室にエアコン設置、古いエアコンの取替、トイレ備品の改修などの環境整備を行なっている。また第 2 校舎前に放飼場を新規開場し動物を移設している。

最終更新日付

2025 年 5 月 15 日

記載責任者

荒木 周平

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
総括 1. 学生の募集について 「動物と共に学ぶ」教育、そしてその結果としての卒業生の実績を、入学案内、WEB ページ、SNS 等を通じて積極的に発信している。 2. 入学選考について 北専各連の定める募集基準に則り、AO エントリーは 6 月から、出願は 9 月から、その他の受験方法による出願は 10 月から受け付けている。募集要項に関しては、学費を全額表示するなど、受験生にとってわかりやすく掲載している。 課題 1. 道外からの入学生の確保 2. 大学との差別化	学校の教育活動全般を、Instagram、Twitter、YouTube、Facebook、TikTok 等のSNSにてさらに適切に情報発信する。	

最終更新日付	2024 年 5 月 15 日	記載責任者	荒木 周平
--------	-----------------	-------	-------

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
総括 1. 財務基盤について キャッシュフロー経営を重視し、収支バランスはとれており繰越収入超過金はない。 2. 予算・収支計画について 計画的な収支計画・事業計画を作成し、適正な予算執行を行っている。学内では、各学科での予算作成と予算執行を行っており、部署毎で適正に予算の運用を行っている。 3. 財務情報の公開について ホームページ上で情報公開ページを設定し、財務情報の公開を行っている。 課題 1. 入学生の確保による継続的財務の安定	学生に対して最高の教育環境が提供できるよう特に実習費を予算通りに適切に支出する。 2025 年度は 7 月に内部の財務監査があるため、適切に対応していきたい。	・収支各項目の比率（広報費等学生募集に関する比率含む）を示すデータの変化は本部がチェックして、アドバイスを受ける。会計監査の体制として、公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。

最終更新日付	2025 年 5 月 15 日	記載責任者	荒木 周平
--------	-----------------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
総括 1. 関係法令・設置基準等の遵守について 法令や設置基準の変更等に伴う申請手続き等を迅速に対応できる体制づくりを行っている。また、監事による毎年の監査によりコンプライアンスの実施状況についてチェックしている。 2. 個人情報保護について 学生、保護者、企業、講師、入学希望者についての個人情報保護について、規定に則り運用を行っている。また、スキル向上のための取り組みとしてITリテラシー資格の取得や研修会を実施している。 3. 学校評価について 自己点検・自己評価、学校関係者評価委員を実施し、学内外からの評価を適性に実施している。 課題 1. 高等教育の負担軽減など法改正への対応	学校運営に関する法令は例年通り順守している、コンプライアンスセンターを擁しより遵守に力を入れる。	

最終更新日付	2025 年 5 月 15 日	記載責任者	荒木 周平
--------	-----------------	-------	-------

基準 10 社会貢献・国際交流

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
総括 1. 社会貢献・地域貢献について、ボランティア活動について 学校犬と学生の嘱託警察犬の登録、各地域の動物愛護フェスティバルへの出展、保護猫の譲渡活動支援、ペットフェスティバルのボランティアスタッフ参加、学校犬と学生の災害救助犬登録、北海道ワンヘルスフェア 2024 の出展など様々なボランティア参加と社会貢献を行ってきた。 2. グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組み 海外研修等でグローバル人材の育成を図っているが、世界情勢の不安定化や急激な円安により、都度開始時期を検討している。それらの動向を注視し、いつでも再開が実施できるよう、準備を整えている。 課題 1. 地域との持続可能な友好関係の構築	2025 年 4 月にシンガポールへ海外研修を行った。	

最終更新日付	2025 年 5 月 15 日	記載責任者	荒木 周平
--------	-----------------	-------	-------

2024 年度重点目標達成についての自己評価

北海道エコ・動物自然専門学校

2024 年度重点目標	達成状況	今後の課題
1. 「動物と共に学ぶ」学校としてのブランド構築 2. 学校学科再編に対応した強い学校作り 3. 授業の質向上に取り組む	1. について 動物と共に学ぶことが教育の中心になってきている。より良い教育環境とここにしかない学びを構築しておりブランド向上に寄与している 2. について 編入学制度の安定的運営ができた。 3. について エコ第2校舎に希少動物保全、飼育可能な施設を開設。また放飼場の拡張や「Microsoft teams」等を使用し ICT 教育を推進させる。また学内インフラの整備として、将来的には ICT 機器をさらに活用し D X を推進する。	1. 道内の高校生が減少していく中で継続的に入学生を確保していくこと。 2. 動物園や水族館などの難関就職が厳しくなった時の在校生の意欲を持続させていくこと。 3. 様々な学生がいる中で授業の質を向上させていくこと。

2025 年度の重点目標

1. エコにしかない学びの推進
2. 顧客の拡大(道外、社会人、留学生)
3. 学校の資源で地域に貢献